

## 舞踊家をつくるシステム

—藤井公（1928—2008）・利子（1937— ）を事例として—

杉山千鶴（早稲田大学スポーツ科学学術院）

本発表は、舞踊初心者が舞踊研究所に入所後、舞踊家として巣立つまでの過程と課程に注目し、門下から多くの舞踊家を輩出したモダンダンスの舞踊家である藤井公・利子の主宰する藤井公・利子舞踊研究所と東京創作舞踊団を事例に報告するものである。

藤井公・利子は舞踊作家として精力的に作品を発表したが、夫妻は当該作品をよりよいものにするのはダンサーであると考え、夫妻は師・小森敏（1887-1951）のレッスンを参考に、ダンサーを鍛えるためのレッスン内容とカリキュラムを考案し、藤井公・利子舞踊研究所で実践した。また夫妻が1961年に結成した東京創作舞踊団では、団員は在籍年数に応じて群舞場面から少人数場面へ、夫妻の作品から自作へ、と段階に応じた活動を行い、やがて「自立」する。本発表では1983年3月～2008年12月における藤井公・利子舞踊研究所のレッスン内容と東京創作舞踊団と団員の活動について報告する。